

## 総務省予算執行監視チーム第1回会議 議事概要

1 日時 平成22年1月29日（金）10:30～11:00

2 場所 総務省省議室

3 出席者

渡辺総務副大臣、内藤総務副大臣、長谷川総務大臣政務官、小川総務大臣政務官、  
階総務大臣政務官

福井大臣官房総括審議官（事務局長）、今林大臣官房会計課長（事務局次長）、  
熊埜御堂大臣官房政策評価広報課長（事務局次長）

黒田地域力創造グループ緑の分権改革推進室長、谷脇情報通信国際戦略局情報通信  
政策課長、山内情報通信国際戦略局技術政策課研究推進室長、安藤情報流通行政局  
情報流通振興課長、奈良情報流通行政局地域通信振興課長、武居情報流通行政局放  
送政策課企画官、田中情報流通行政局放送技術課長、澤田情報流通行政局衛星・地  
域放送課地域放送推進室長、長塩総合通信基盤局電気通信事業部データ通信課長、  
竹内総合通信基盤局電波部移動通信課長

4 議事

- (1) 両副大臣挨拶
- (2) 予算執行監視チームについて
- (3) 第二次補正予算に係る事業の概要説明
- (4) 今後の進め方

5 議事概要

(1) 両副大臣より挨拶

（渡辺副大臣）

○総務省予算執行監視チームが設置された。これは、税金の無駄遣い、あるいは  
国民から疑念を持たれるようなずさんな執行をなくすことが1つの使命と認識  
している。

○昨日、補正予算が成立したところであり、政務三役を中心に、適正に執行され  
るよう皆さん方と一緒にフォローアップしてまいりたい。

(内藤副大臣)

- 予算執行監視チームについては、来年度予算からとのことであるが、原口大臣の大変強い思いで、まず、総務省として、21年度第2次補正予算からしっかりとPDCAサイクルを回していきたい。
- 大事なのは決算でいろいろな問題点を見つけ出し、それを次年度の予算へ反映していくことであり、そういった意味で今回の予算執行監視チームの果たすべき役割は大変大きいものがある。

(2) 予算執行監視チームについて内藤副大臣より説明

(主な意見)

- 物品調達については、例えば契約監視会の成果についての意見交換などもこのチームで行えば、より網羅的に予算執行の監視が出来るのではないか。

(3) 第二次補正予算案に係る事業の概要を今林会計課長より説明

(4) 内藤副大臣より今後の進め方等について説明

(内藤副大臣)

- エコポイントについては、申請のあり方をもっと効率化できないかと考えており、対応策を検討していただきたい。
- 「ふるさと元気事業」や「緑の分権改革」については、このような事業はお金が切れると失速してしまう案件も多いので、プロデューサーがしっかりとしたビジョンを持っているか、2年目以降も自立してやっていただけるかなどの観点で見えていただきたい。
- 事業者からは、事業の効果が出てくるのは2年目以降で、1年目で評価されるのはつらいといった声もあるので、そのようなことにも留意していただきたい。

(主な意見)

- 監視というと萎縮してしまうが、使い勝手がいいものかどうか、地方の現場の声をヒアリングするなどして改善していきたい。
- 監視チームは、総務省自身が総務省の予算執行のプロセスそのものをみずから監視する、そして国民の皆様によくわかるようにオープンにお示しするものと理解している。